

産業部会報

地域活性化の現地研修

研修テーマ 稲によるむらおこし＝田んぼアートに学ぶ

日時 平成20年9月6日(土)

場所 青森県南津軽郡田舎館村

産業部会企画の今回の研修は、地域おこしに取り組んでいる先進地に学び今後の産業活性化に生かすため実施しました。

出発時小雨状態でしたが、参加者の精進が良かったのか東北自動車道に乗り始めましたら徐々に晴天になり目的地へと北上、国道102号線へと途中休憩、道の駅いなかだて周辺には埋蔵文化センター・博物館・遊稲の館(総合案内所)など整備されておりました。

国道102号沿線は、コスモスロード・遊歩道、ミニ公園と環境へも配慮、感心している間もなく現地到着、既に観光客が沢山早速誘導員案内のもと天守閣最上階へ、余りの素晴らしさに一同ため息、全国的にも有名になり年間20万人前後の観覧者数も領けました。



田舎館村の田んぼアート

◎ 今年の題材は

「景気回復と明るい未来」への願いを込めて
恵比寿様と大黒様に決定。

●つがるロマン ●紫稲 ●黄稲 ●紅都の
4色に加え、色素の薄い稲を用いて白色を表現
されいる。

◎ 事業の経緯

昭和62年地域内産業の活性化、特産品の開発
により村の活性化を図る為「村おこし推進協議
会」結成平成4年迄農産物など共振会を開催す
るが次第に物、人も集まらなくなる。

平成5年に集客効果が期待でき、古くからの歴
史の有る米にこだわったイベントとして、昔な
がらの手作業を基本とした「稲作体験ツアー」
を開催に至る。

裏面へ続く



◎ 参加者からのひとこと

- ★地域資源（歴史や産物等）をいかした「むらおこしの着想・取り組んできた歴史の重み」そしてむらおこしの幅広い地域経済への波及効果、などを改めて感じ勉強になった。
 - ★古代米を利用した良いアイデアだと思う、紫稲・黄稲・紅都・つがるロマン、色彩が爽やかでした。又役場の展望台が城の作りで良かった。
 - ★稲作体験ツアーをして各地からの集客効果は素晴らしい、特に基幹作物に拘ったことに感心しました。
 - ★今回の研修で田舎館村では地域内産業の活性化や、特産品の開発等により村の活性化を図るために始めたとの事であるが、村の歴史に拘り米のイベントした田んぼアートに感心しました。
見てびっくり！！私達も八幡の歴史を踏まえ地域発展のために参考として取り組んでみるのもおもしろいのではないかな。
 - ★人口一万人弱の小さい村なのだが、非常に未来の明るいことを感じた。
 - ★無料にしている点もよい、撮影も勿論自由で稲穂を手に触れて観察することが出来た。
 - ★寄付金や募金方式も大きいことだと思う、入場料を取れば客足も減り魅力が半減するのようにして収入を確保するか、安易にグッズを作って売ればいいというのではなく、如何に大勢の人を呼んで商売に結びつけるかという戦略も必要。（いわゆるコミュニティビジネス）
 - ★実際八幡でも出来ればいいと思いますが、なかなか大変なことと感じました地域づくりにはいいと思いますが、八幡のリーダーの方の纏めにかかっていると思います。
 - ★人材育成がカギになると思います。
 - ★無理せず出来ることから人づくり環境づくりと前向きな姿勢で。
 - ★地域の活性化は、まず地域資源を再認識することがスタート、そしてそれらをどう生かすか知恵を出し合い考え、合意形成を取り組むことが大切。
 - ★もし、八幡でも同じような田んぼアートを行うのならもつとスケールの大きい、田んぼ10枚位を使って本家越えに挑戦してほしい・・・二番煎じだと言われるかも知れないので、畑アート野菜作りバージョンはどうでしょうか、3年位はまちづくりとして進め盛り上がってきた所で、専門家を呼んできてコミュニティビジネスとして展開「八幡は他とは違うんです」という所を発信してほしいです。
 - ★八幡地域の環境を（空港・温泉に近い条件）を生かした地域活性化を考えたい。
 - ★観光名物は長期的視野で考えなければと思います。地域おこしをすれば特産品生まれるのではないのでしょうか。
- これからもまちづくり協議会全体の参画・協働と情報交換しながら連携強化、活動（取り組み）出来ればいいですね！！

（産業部事務局 柳原 久夫）